

**「唐津街道むなかた」平成21年度の活動報告**



原町に設置された灯ろう型の街路灯



平成19年度に九州風景街道に登録されてから3年を経過する唐津街道むなかた推進協議会。平成21年度は赤間宿に焦点を絞り、まちづくりに関する住民アンケート調査をはじめ、交通量調査や散策ルートマップづくりワークショップなどを実施。その成果として、赤間宿の魅力を十分に満喫できるウォーキングマップがこのたび完成しました(概要を本紙掲載)。

また、赤間宿の上町交差点には現在と往時の街なみを紹介する案内板を新たに設置。原町では建物の外観を街道の雰囲気と調和させる修景事業(3件)や灯ろう型の街路灯の設置(9基)が実施され、街道の風格もさらに増してきました。

**赤間宿のまちづくり**  
また、前日の20日(土)には、赤間宿に加え、唐津街道の前原宿や門前町の高取の関係者が集まり、お互いのまちづくり活動を紹介し合う「唐津街道サミット」が開催されました。

赤間地区コミュニティ運営協議会主催の「赤間宿まつり」が2月21日(日)、にぎやかに開催されました。雲ひとつない快晴のお天気に恵まれ、街道沿いの会場は、あふれるほどの人の波で埋まりました。

町筋には、各自治区会の出店など約40店が店を開き「おいしいよ、おいしいよ」の呼び声が、まつり気分を盛り上げていました。



**唐津街道の街なみ整備・保全の取り組み**



**原町の修景事業**  
原町では、唐津街道沿道の歴史的な街なみを保全・再生していくことを目的に、住民が「街なみ景観整備に関するまちづくり協定」を締結。この協定に従いながら住宅の屋根や壁などの外観を和風に修景して、歴史的な街なみに調和させる取り組みが平成16年度から行われています。

写真は、平成21年度修景工事中の時安邸の様子です。コロンアル、セメント瓦葺きだった屋根を黒色鋼板に葺き替え、モルタル塗りの外壁を白壁や杉板張りに修景して、街なみと調和するよう工事が進められています。

**散策ルートづくりワークショップを開催しました。**

■グループ1の話し合いの様子



平成22年2月23日、赤間地区コミュニティ・センターにて、散策ルートマップづくりワークショップを開催しました。当日は、21名の市民の方が集まり、赤間宿の地域資源を掘り起こし、楽しく巡れるルートづくりについて活発な議論がなされました。

グループ1では、女性二人旅をテーマに、グループ2では、子どもと団塊の世代を対象に、グループ3では、歴史探訪をテーマに話し合いが進み、それぞれ特徴のある散策ルートができあがりました。

その結果から、今年度は「ふらりと和服姿の女性二人旅」を取り上げ、赤間宿のウォーキングマップとして作成しました。今後は、赤間地区コミュニティ・センターや道の駅むなかた等で配布する予定です。

■グループ2の発表の様子



■作成したウォーキングマップ

**まちあるきテーマ**  
**ふらりと和服姿の女性二人旅**

**おすすめの散策ルート**

- 1 JR教育大前駅
- 2 五卿西遷の記念碑
- 3 出光佐三生家
- 4 いやしる空
- 5 藤屋酒造
- 6 吉田邸
- 7 釣川一孝定石
- 8 徳重桜公園
- 9 熱池公園
- 10 熱池神社(辻井戸、蒜崎お灰の碑)
- 11 JR教育大前駅

このマップは、ワークショップで話し合ったテーマに基づき作成された。散策ルートの途中には、歴史的な建物や公園、神社などがあり、和服姿の女性二人旅を楽しむのに最適なコースとなっている。

■グループ3の話し合いの様子



**唐津街道の歴史紹介**  
**五卿西遷(ごきょうせいせん)の碑**

日本が大きな変動を遂げようとしていた幕末動乱期、勤皇派として重要な役割を果たしていた三条美里ら五人の公卿が、赤間宿に滞在したことを記念して建てられたのが「五卿西遷の碑」です。徳川幕府の手から逃れるために、五卿は長州(現在の山口県)から太宰府に移る途中で、郷土の勤皇家・早川勇の案内によってこの地を訪れました。わずか一ヶ月余りの期間でしたが、滞在中には、高杉晋作、西郷隆盛らの同志が足繁く訪れ、時勢について語り合っただと言われています。

碑が現在地に移ったのは昭和四十二年で、それまでは藩主黒田公の別館跡(御茶屋)にありました。そのことから、当時地元の人々が、五卿を手厚くもてなしたのだろうと思われるそうです。

所在地 JR教育大前駅  
城山中(文) 上町交差点  
【唐津街道赤間宿】 吉武方面→  
←自由ヶ丘方面

# 赤間宿に関する住民意識調査結果のまとめ

**Point. 1 地域住民の赤間宿の認知度は高い。**  
赤間宿の認知度（よく知っている）＋「知っている」の合計は、全体で約81%、赤間区（自治区）で約84%と非常に高くなっています。

**Point. 2 赤間宿を知ったのは「広報紙」と「家族や地域の語り継ぎ」。**  
赤間宿を知った手段に関しては、「市広報誌」が最も多くなっている一方で、「親やお年寄りから聞いた」「この町で生まれ育ったから」など、家族との会話や地域とのつながりを通じて、赤間宿を知ったという意見が非常に目立っています。

**Point. 3 赤間宿の広報手段は「広報紙」「拠点施設での情報提供」など、複数の手段のミックスが有効。**  
赤間宿の広報手段に関しては、「パンフレット、広報紙」が効果的であると考えられます。

**Point. 4 地域資源の認知度は「地域住民が関わる機会」の多少に関係。資源の価値の本質は「物語」にあり。**  
地域資源の認知度に関しては、「勝屋酒造」「赤間宿祭り」「出光佐三の生家」などが特に高くなっており、これらの共通点は、酒蔵開放や祭りへの参加、生家の見学など、地域住民が資源に関わりを持つ機会が設けられている点にあります。

その一方で、「石松林平・伴六碑」「釣川改修の一番碑」「五卿西遷記念碑」などは、地域住民の接する機会が少ないのはもちろん、記念碑自体が資源の価値ではなく、記念碑が建てられた歴史背景や当時の出来事を含めた物語の中にこそ価値があり、その価値の伝達や情報の発信が不十分であると考えられます。

そのため、広報紙などにより読み物として伝えることや、ボランティアガイドなど地域の語り部によって昔話として言葉で伝えること、こどもたちの演劇等による物語の再現など、様々な情報発信の工夫ができると思います。

**Point. 5 地域住民のニーズは「街道の安全性の確保」と「赤間区住民の合意」。まずは語り合う場づくり。**  
今後、必要な取り組みに関しては、「街道を安全に散策できる仕組みづくり」が多く、歩行者を優先した道路空間の安全性確保が求められています。

次いで、「赤間区住民の協力や合意形成」「まちなみ保存のためのルールづくり」が多く、地域住民の方向性の統一や合意した上でのルール化など、まずは地域住民が集まり、思いや考えを語り合う協議の場の創設が必要だと考えられます。

**Point. 6 「お祭り」をきっかけに、まちづくりへの参加を促すのが有効。**  
興味のある取り組みに関しては、「お祭りやまちづくり活動」が最も多く、例えば、認知度の高い赤間宿祭りのように地域住民が参加しやすいお祭りなどから入り、次のステップとして、「まちなみを残すための勉強会」や「歴史勉強会」など参加を促していくことが有効であると考えられます。



前号では、調査結果の速報をお伝えしました。そこで今号では、その結果を分析し、結果からわかることを、6つのポイントに整理して、みなさんにお伝えします。

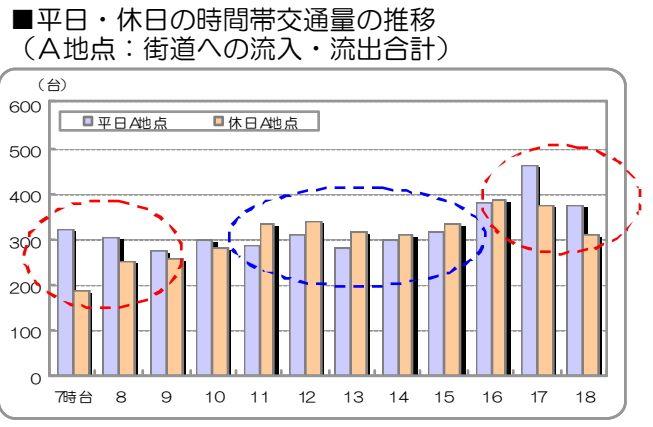
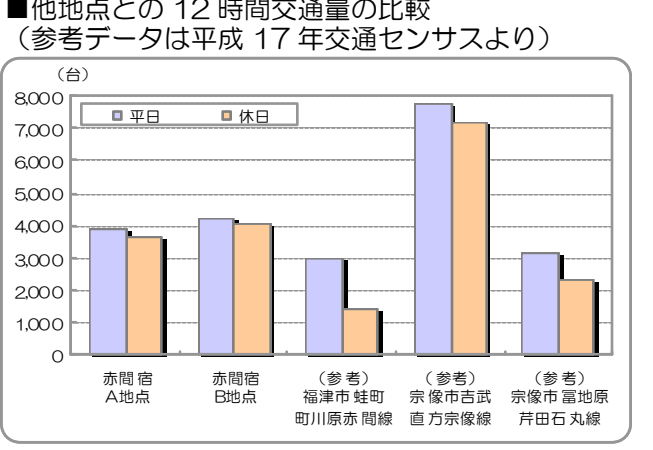
# 赤間宿の交通量調査を行いました。

**■調査の概要**  
 ㊦ 調査内容：赤間宿における平日・休日の12時間交通量の測定  
 ㊦ 調査日時：平日【11月20日（金）7:00~19:00】  
 ㊦ 休日【11月28日（土）7:00~19:00】  
 ㊦ 調査地点：右の図のとおりA、B、Cの3地点を設定



**■調査の概要**  
 ・唐津街道赤間宿は、地域住民が親しみを感じ、集い、楽しむことのできる街道づくりを進めています。今後は、地域外からも来訪者呼び込み、地域の魅力を知ってもらい、自他共に認める風景街道の形成を目指しています。  
 ・そのため、安全かつ快適に、赤間宿の地域資源を回遊できる散策ルートの作成およびツアーの開催を見据え、現状の交通量の把握を行います。

**■結果のまとめ**  
 ・交通量は各地点とも、平日よりも休日の方が若干なくなっています。  
 ・また、市内外の他の地点と比較をすると、同じく唐津街道の福津市蛙町（町川原赤間線）や近隣の宗像市富地原（芹田石丸線）よりも多く、宗像市吉武（直方宗像線）よりも少なくなっています。  
 ・交通量の方向については、平日、休日ともに、上り線（北進）より下り線（南進）の交通量が2割程度多くなっています。  
 ・時間帯別交通量については、各地点とも、平日の朝2時間（7~9時）および夕方2時間（17~19時）の交通量が、休日の時間帯の交通量を大きく上回っています。



**ホームページが新しくなりました!**  
 「ちょっとよりみち唐津街道むなかた」のホームページが、見やすく、使いやすくなりました。また、活動報告も頻繁に行っておりますので、ぜひ一度アクセスしてください!  
 アドレス→ <http://yorimiti.wawawa.org/>

**■考察**  
 次の2パターンが、街道を通行する自動車の中で、大きな割合を占めています。  
 ・パターン1（下り線）：赤間上町の交差点より右左折両方から流入し、自由ヶ丘方面に抜けていく。  
 ・パターン2（上り線）：自由ヶ丘方面より直進で流入し、赤間上町の交差点より右折し、吉武方面に抜けていく。  
 ・来年度以降、ウォーキングツアーを実施する際には、休日の午前11時までか、午後1時から3時までの時間帯であれば、交通量が比較的少なく、より安全に散策ができると考えられます。